

情報通信研究機構

NICT 先端研究

(94)

が始まった。

となつたのである。

どのモバイル端末で10

教育、報道、出版、最近

年大きな台風被害を経

ムは、これらアジア諸

国においても活用が期

全球画像を10分ごと

我々は「ひまわりリ

に、日本域画像を2・

アルタイム」として情

ではシチズンサイエン

スでも広く利用されて

アルタイムのミフーサ

5分ごとに生成(ひま

り7号は30分ごと)

しており、生成される

データ量はひまわり7

号の約50倍(1年で1

50テラバイト)となつた。

ひまわり8号はこれま

る高速データ伝送技術

と大規模可視化技術を

融合し、気象衛星ビッ

グデータをリアルタイ

ムに国民に伝えるアプ

ト実現のためにAn

報通信研究機構が有す

つでも、どこにいて

の姿を「だれもが、い

の姿を確認できる。

シーやマレーシア、シ

ニアポールなどは森林

り7号は「観ることができる

いつでも宇宙から地

球(日本の姿を確認で

できる安心感こそが、ひ

まわりリアルタイムが

火災による大気汚染が

も「観ることができる

大気汚染がタームへのアクセスは

深刻である。中国は黄

砂以外にも近年微小粒

子状物質(PM2・5)などによる健康被

害が心配されている。

ひまわり8号はこれま

での気象衛星では考え

立場では「今、手のひら

のスマートフォンな

のスマートフォンな

のスマートフォンな

ることができなかつた

ことができなかつた

ことができなかつた

ことができなかつた

ことができなかつた

ことができなかつた

ビッグデータ気象衛星

の上で見る地球」であ

したことで、気象予報

の現場だけではなく、

リビングや台湾などは毎

リビングや台湾などは毎

近年、台風や暴風
雨、大雪、ゲリラ豪雨
などの気象現象により
我々の日常生活が深刻
な影響を受けることが
珍しくない。より詳し
い気象情報をいち早く
 국민に伝えるため、2
 015年7月7日にひ
 まわり8号衛星の運用

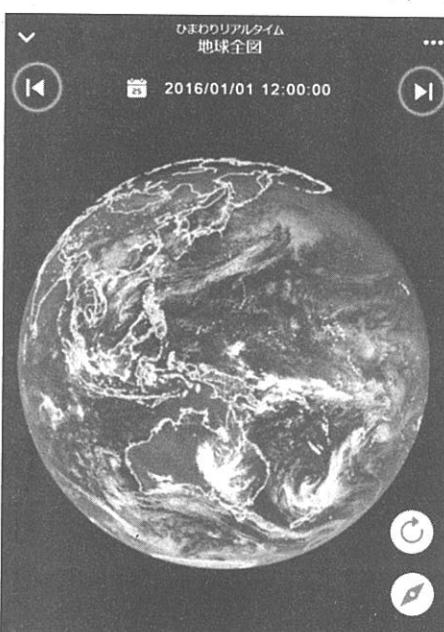
科学技術・大学

総合テストベッド研究開発
推進センター・研究統括

村田 健史



95年京都大学博士課程修了後、愛媛大学教員を経て、現職。専門は大
規模可視化技術、高速データ通信技術、映像伝送技術およびIOT技術
などの融合による国際連携、地域連携。博士(工学)。



ひまわりリアルタイム
(<https://himawari8.nict.go.jp>)

ムは、これらアジア諸
国においても活用が期
待されている。実際、
イトの運用を開始し
た。情報通信研究機構
が運用する高速ネット
ワークJGN国際回線
により、今日も衛星ビ
ッグデータがリアルタ
イムにアジアの国々に
届けられている。
(火曜日)に掲載)